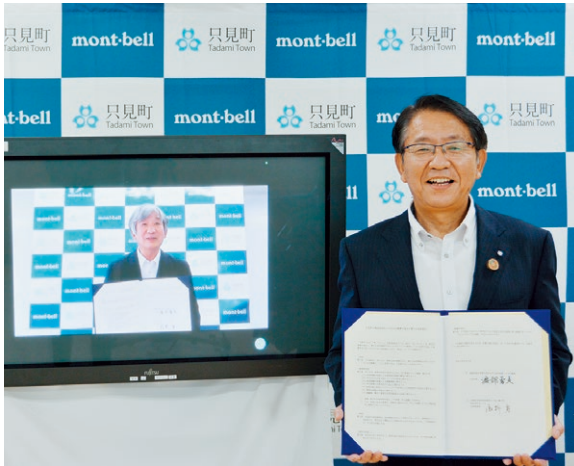


株式会社 モンベルと包括協定を締結



協定の背景

只見町は、日本でも有数の豪雪地帯としても知られ、豊かな自然を有することから日本の自然の中心地として「自然首都・只見」を宣言しています。また、ユネスコ（国連教育科学文化機関）から人と自然の共生を実現するモデル地域として「只見ユネスコエコパーク」にも登録され、自然環境の保護・保全、学術調査、教育・人材育成、持続可能な社会経済の発展を目指しております。

これら只見町のまちづくりの基本理念である「人と自然の共生」と、株式会社モンベルの7つのミッションの方向性は同じであり、今後、相互に連携し課題解決に向けて取り組んでいくこととしました。

モンベルと只見町の連携事項

- 1、自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関すること
- 2、子どもたちの生き抜いていく力の育成に関すること
- 3、自然体験の促進による健康増進に関すること
- 4、防災意識と災害対応力の向上に関すること
- 5、地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関すること
- 6、農林水産業の活性化に関すること
- 7、高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進に関すること

協定を結ぶにあたって

この度、株式会社モンベルと7項目にわたる連携と協力に関する包括協定を締結させていただきました。何れも只見町にとって大切な事柄であり、この協定を機に力をお借りしながら只見町の振興のためにさらに励んでまいりたいと覚悟です。

私は、これからの目まぐるしい時代を生き抜くための力を育む環境や機会を子どもたちに提供することが大人の使命だと考えております。

社会に出れば順調な事ばかりではありません。それに負けずに生き抜くためには、周囲の励ましとともに、多くの経験から得た自分を信じる力を持つことが必要だと思っています。

株式会社モンベルと共に良い経験ができる環境や機会づくり、そのうえで地域経済の活性化に繋がる取り組みを町議会と力を合わせて、より一層努めてまいります。

皆様のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

只見町長 渡部 勇夫

株式会社 モンベル

昭和50年8月1日創立。従業員数は1,240人。大阪に本社を置き、アウトドア用品の企画・製造・販売を手がける日本を代表するアウトドアスポーツ会社。社会的使命として、7つのミッション「自然環境保全意識の向上」、「野外活動を通じて子供たちの生きる力を育む」、「健康寿命の増進」、「自然災害への対応力」、「エコツーリズムを通じた地域経済活性」、「一次産業（農林水産業）への支援」、「高齢者・障害者のバリアフリー実現」を掲げている。

HP：<https://www.montbell.jp/> 右記のQRコードからもアクセスできます。



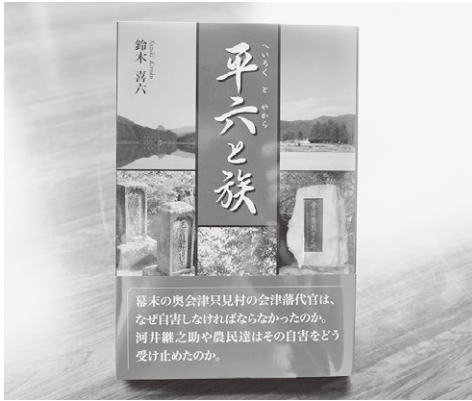
「平六と族」を
寄贈いただきました

只見町只見出身の鈴木喜六さんから書籍「平六と族」を寄贈いただきました。

奥会津の歴史や戊辰戦争について、只見町にゆかりのある平六や丹羽族を中心に書かれています。

―幕末の奥会津只見村の会津藩代官は、なぜ自害しなければならなかったのか。河井継之助や農民達はその自害をどう受け止めたのか（帯紙より）

書籍は、各振興センター、河井継之助記念館、叶津番所、ただみ・ブナと川のミュージアム、田子倉館で閲覧ができます。興味のある方はぜひご覧ください。

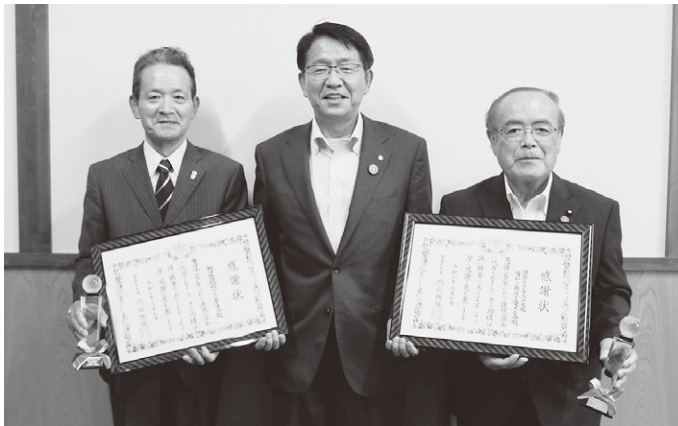


▲題字、カバー写真も喜六さんご自身によるものとのことです。

地域をキレイに
うつくしま、ふくしま。環境顕彰に
町内2団体が選ばれました

「国道252号六十里越雪わり街道を愛する会（会長・目黒長一郎さん）」と「朝日地区地域づくり委員会（会長・目黒俊行さん）」が、令和3年度うつくしま、ふくしま。環境顕彰を受賞されました。

受賞された2団体は、道路のゴミ拾いなどの清掃による地域環境の美化活動が環境保全に繋がっていることが評価され、受賞となりました。



▲受賞の報告をする目黒俊行会長(左)と目黒長一郎会長(右)

JR只見線再開通に向けて
只見駅前にはぎわい創出事業
住民説明会開催

令和4年中に予定されているJR只見線全線運転再開に合わせて、町の総合案内機能と飲食物販等の受入れ体制の整備を行う「只見駅前賑わい創出事業」の住民説明会を各振興センターで開催しました。（7月6日／只見、11日／朝日・明和）

住民説明会では、これから整備する施設や只見駅との関係、地域全体の観光の強化などに関する意見が出されました。

意見等の概要は、町ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



▲住民説明会の様子（只見振興センター）

危険個所の解消のため
国道289号
改良促進の要望を提出

南会津建設事務所と国土交通省に国道289号改良事業の促進について要望書を提出しました。

要望については、「大倉地区と小林地区を繋ぐ明和橋について、急カーブで見通しが悪いため、見通しの良い場所に架け替えること」、「桃木沢周辺の道路について、路面凍結や雪崩などの危険性があるため、冬期通行の安全確保のためのバイパス化を図ること」の2点を要望しました。



▲大竹所長に要望書を手渡す渡部町長